

KAWA G O E

District Fire Department 50th Anniversary

川越地区消防組合
設立50周年記念誌

1973



2023

CONTENTS

川越地区消防組合設立50周年記念誌

2 [prologue]
守り抜く 安全・安心 その笑顔

4 設立50周年を迎えて

11 **第1章**

構成市町紹介

12 川越市

14 川島町

17 **第2章**

これまでの歩み [年表]

26 [column]

川越消防の黎明期を支えた消防車「ハドソン号」

29 [column]

川越地区消防組合OB職員インタビュー

33 **第3章**

組織・業務紹介

46 [column]

歴代・現消防局長 座談会

51 **第4章**

50周年記念事業

59 **第5章**

消防関係協力団体

62 [column]

若手・ベテラン職員による座談会

68 川越地区消防局のリクルート情報





守り抜く 安全・安心

その笑顔

KAWAGOE District FIRE DEPT. 50th Anniversary



川越地区消防組合管理者
川越市長 川合善明



設立 50周年を 迎えて



このたび、川越地区消防組合は設立50周年を迎えることができました。

記念すべき節目の年を迎えられましたことは、一重に住民の皆様並びに関係各位の深い御理解と御協力並びに献身的な御尽力の賜であり、衷心より感謝申し上げます。

川越地区消防組合は昭和48年4月1日、川越市並びに川島町の1市1町の構成により、消防事務を共同処理することを目的といたしまして、1消防本部・1消防署・3消防分署、川越市消防団1団本部・12分団、川島町消防団1団本部・3分団6部をもって発足し、半世紀を経て現在の体制へと発展してまいりました。

この半世紀の間、消防行政を取り巻く環境は大きく変化し、平成3年の救急救命士法の制定により、国家資格を有した救急隊員は高度な処置を行えるようになり、その後も、救急隊員が行える応急処置等の範囲は着実に拡大しております。さらに、平成7年の阪神・淡路大震災を踏まえ、全国の消防機関相互による迅速な援助体制として、緊急消防援助隊が発足し、消防組織の強化を図る大きな転機となり、被災地の消防力だけでは対応困難な大規模・特殊災害の発生に際して、都道府県の垣根を超えた迅速な災害対応が行えるようになりました。

また、令和2年には、新型コロナウイルス感染症が世界規模で感染拡大し、日常生活はもとより社会経済活動を一変させるなど、大規模災害といえるほどの大きな影響を及ぼしました。

近年は、全国的に地震や豪雨による自然災害が多発し、住民の安全・安心に対する関心と消防に寄せる期待はより一層高まり、消防の役割はますます重要なものとなっております。今後も川越地区消防組合は、これまで積み上げてきた歴史と経験を基に、一丸となり最善の努力を続けてまいります。

結びにあたり、皆様の御健勝と御多幸を心から御祈念申し上げまして、川越地区消防組合設立50周年を迎えての御挨拶とさせていただきます。



川越地区消防組合議会
議長 小ノ澤哲也

このたび、川越地区消防組合設立50周年にあたり、組合議会を代表いたしまして心からお祝いを申し上げます。

川越地区消防組合は消防体制の充実強化を図るため、昭和48年4月1日に発足し、以来、地域の安全確保のため数多くの施策を進めてまいりました。

近年では、私たちの想定を上回るような大規模な地震や水害、台風や竜巻等による甚大な被害が全国各地で発生しており、安全・安心に対する関心と消防に寄せられる期待は、年々高まりを見せております。

このようなことから、組合議会といたしましても、住民の皆様が平穏な日常を送れるよう、また、災害発生時には被害を最小限に留められるよう、日々努力を重ねてまいり所存であります。

住民の皆様並びに関係各位におかれましては、引き続き地域減災に御尽力いただきますとともに川越地区消防組合に対しましても、変わらぬ御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

消防職員並びに消防団員の皆様には、改めて50周年という大きな節目を機に新たな決意のもと、地域の皆様の信頼と負託に応えられるよう期待するものであります。

結びにあたり、川越地区消防組合のさらなる御発展と皆様の御健勝を心から御祈念申し上げまして川越地区消防組合設立50周年のお祝いの御挨拶とさせていただきます。



川越地区消防組合副管理者
川島町長 飯島和夫



川越地区消防組合副管理者
川越市副市長 栗原薫

川越市消防団
団長 栗原 隆



川越地区消防組合設立50周年という節目を迎え、組合を構成する川越市消防団の団長といたしまして、関係の皆様へ心より感謝申し上げます。

川越市消防団の祖は、江戸時代の1775年頃に創立された川越城下町十ヶ町、四門前の「町火消し」といわれております。この長い道のりの中で、川越地区消防組合と歩んできた50年は、まさに目まぐるしく変化する現代社会を、全力で共に駆け抜けてきたのではないかと思います。

組合が管轄する川越市、川島町は、河川が多く、豪雨や台風による水害の被害が多発してきた地域であり、また、埼玉県全域が「首都直下地震緊急対策区域」に指定されていることから、地震の影響も軽視できない地域でもあります。

このような地域の特性を踏まえ、消防団に向けられた期待は大きく、複雑かつ多様化していく災害に対応するためには、常備消防と連携し、地域における消防・防災の中核として活動することが必要であると感じております。

私たちは、先人が築いてきた道があったからこそ、目指すその先へと歩み続けることができました。先人の消防関係の皆様へ深く敬意を表するとともに、川越市消防団といたしましても、「自分たちの町は自分たちで守る」という創立以来の精神に基づき、消防関係の皆様と緊密に連携を図りながら、一致団結して精進してまいります。

皆様方には、今後もより一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

川越地区消防組合設立50周年にあたり、先人の消防関係者の皆様、また、消防職団員を陰で支えてこられました御家族の皆様へ心より敬意と感謝を申し上げます。

川島町消防団は、昭和29年11月に合併により設立された川島村消防団を前身とし、昭和47年11月の町制施行による川島町消防団への改称を経て、昭和48年4月からは川越地区消防組合とともに地域防災リーダーとして災害活動だけでなく、火災予防活動や応急手当の普及啓発など地域住民の生命、身体、財産を守るため幅広く活動してまいりました。

近年は、各地で大規模地震や局地的な集中豪雨による災害が発生し、災害が大規模化・複雑化する一方、消防団は少子高齢化・過疎化など様々な社会的要因により、団員の減少という大きな課題に直面しております。

川島町消防団では、先人から受け継いだ安心して暮らせるまちを次世代へ引き継ぐため、住民の皆様へ寄り添いながら、今後も関係機関との連携強化を図り、消防団の充実強化に取り組んでまいります。

結びに、この50周年の節目にあたり、「地域防災の要」としての決意も新たにより一層精進してまいりますので、皆様へ御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

川島町消防団
団長 笹岡 稔



川越地区消防組合
消防局長 齋藤 匡央

私達消防には、世界共通の思いである誓いの言葉があります。

「命を救うためには、どんな妥協もしない、決して諦めない」この誓いの言葉を旗印として、火災や災害と戦い続けてきた50年間。それは確かにたくさんの人の命を救ってきたという歴史であります。

しかし、私達が忘れてはならないのは、その裏で救いたくても救うことのできなかった多くの命があるという事実、更には、自らの命の危険を顧みることなく果敢に災害に立ち向かい殉職された先輩職員がいるという事実。私達は、「誓いの言葉」の重さを再認識し、消防の目的を完遂すべく怠ることなく努め続ける決意を新たにしました。

そして、もう一つ誓いの言葉があります。それは川越消防のシンボル「雁」にまつわるものです。

雁は、目的をぶらすことなく、役割を分担し、協力し合うことで、お互いの安全を守り、励まし合い、決して仲間を見捨てることなく目標とする遠距離飛行を達成します。この雁の習性を消防として一言で言い表すならば、命を救うという目的達成のために、「寄り添い続ける」という言葉に集約されます。

「地域の皆さんに寄り添う・助けを求める人に寄り添う・傷病者に寄り添う・その家族に寄り添う・そして仲間へ寄り添う」この寄り添う気持ちを、絶やすことなく持ち続けることが雁のシンボルにふさわしい活動となり、雁のシンボルにふさわしい組織になるものと信じて疑いません。

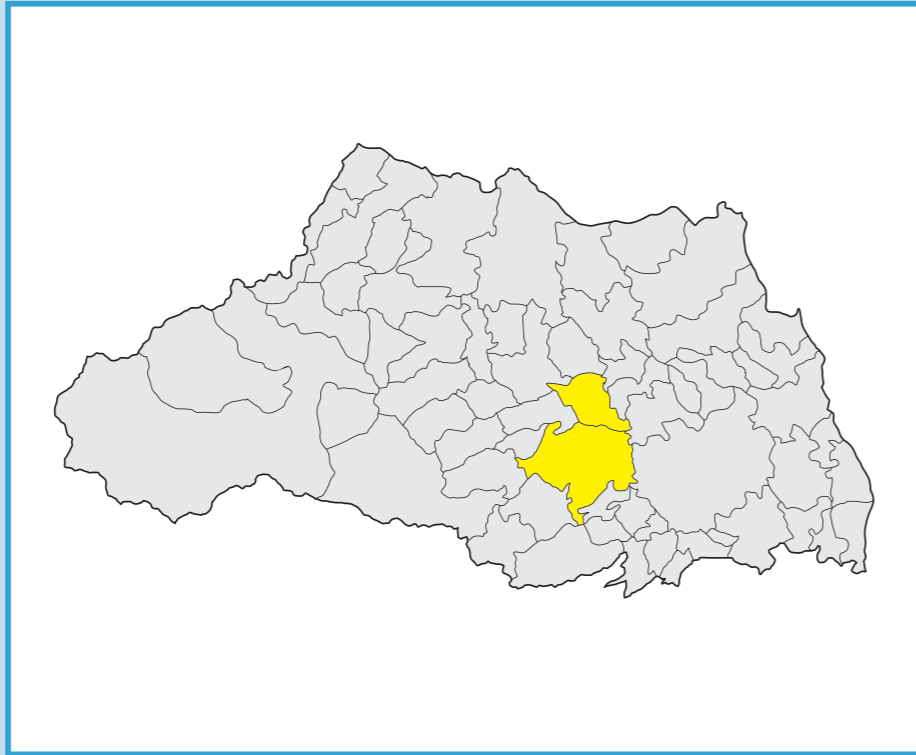
「命を救うためには、どんな妥協もしない、決して諦めない」という世界共通の消防の思いである誓いととも、雁のシンボルにふさわしく「寄り添い続ける」。

大きな節目を迎えた私達は、この2つの誓いの言葉をしっかりと胸に刻み、弛みない努力の元、揺るぎない消防組織として歩み続けてまいります。

第1章

川越地区 消防組合

構成市町紹介



川越地区消防組合は、埼玉県のほぼ中央に位置する川越市と川島町の1市1町で構成された消防業務を共同処理する一部事務組合です。

管轄する川越市は、小江戸川越と呼ばれ、今も江戸の情緒を色濃く残しています。蔵造りの街並みやユネスコ無形文化遺産に登録された川越氷川祭の山車行事(川越まつり)など、魅力ある歴史的・文化的な遺産が数多く残っています。

また、川島町は、その町名のとおり四方を「川」に囲まれた「島」のような町で、今なお多くの緑を残しており、四季折々の風景が心を和ませてくれる一方、産業団地の整備が進み、町には新たな活気がもたらされています。

令和5年4月1日現在

川越市

面積：109.13km²
人口：352,986人
(男性175,918人/女性177,068人)
世帯数：166,362戸

令和5年4月1日現在

川島町

面積：41.63km²
人口：19,112人
(男性9,771人/女性9,341人)
世帯数：8,214戸



50周年ロゴマーク

坂本達也さん(川越市むさし野)の作品

今回のロゴは、川越地区消防組合がこれまでもそしてこれからも住民の安全・安心のため活躍し続けていくという思いを込めて、羽ばたく雁が50の文字を勢いよく突き抜けていく様子(50の裏側の雁はこれまで軌跡、50の表側の雁はこれからの活躍をイメージ)を表しました。

50周年キャッチフレーズ

福田洋明さん(静岡県伊豆の国市)の作品

50年を過ぎるこの先も市民及び町民の安全・安心を守り抜く組合の伝統と使命感を表現しました。

令和5年4月1日川越地区消防組合は設立50周年を迎えました。そのシンボルとなるロゴマークとキャッチフレーズを紹介いたします。多くのご応募作品の中から、住民による投票や実行委員会等の審査を経て、設立50周年を記念するにふさわしい素敵な作品が選ばれました。

川越市



時の鐘



川越まつり



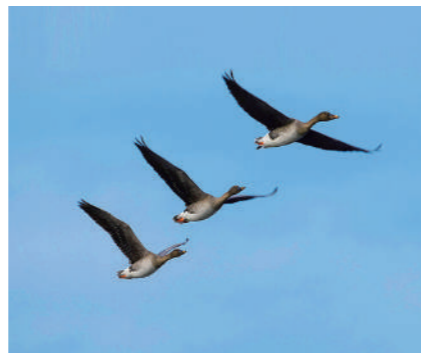
蔵造りの町並み



川越市の木：かし



川越市の花：山吹



川越市の鳥：雁（かり）

川越市は埼玉県の中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端に位置する都市です。都心から30kmの首都圏に位置するベッドタウンでありながら、商品作物などを生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など、充実した都市機能を有しています。

古代より交通の要衝、入間地域の政治の中心として発展してきた川越は、平安時代には桓武平氏の流れをくむ武蔵武士の河越氏が館を構え勢力を伸ばしました。室町時代になると、扇谷上杉氏の下、太田道真・道灌父子が現在の初雁公園周辺に河越城を築き、川越の中心がここに移ります。その後、小田原北条氏の支配の確立にともなう家臣団の城下への集住が進み、初期の城下町が形成されました。江戸時代には江戸の北の守りとともに、舟運を利用した物資の集積地として重要視されました。

大正11年（1922年）には埼玉県内で初めて市制を施行し、昭和30年（1955年）には隣接する9村を合併し現在の市域となりました。平成15年（2003年）には埼玉県内で初めて中核市に移行、そして令和4年（2022年）12月に市制施行100周年を迎えました。

川島町



平成の森公園



遠山記念館



川島町の風景

川島町は埼玉県のほぼ中央に位置し、北は都幾川・市野川を境として東松山市・吉見町に、東は荒川を境として北本市・桶川市・上尾市に、南は入間川を境として川越市に、西は越辺川を境として坂戸市に接しています。まさに「川に囲まれた島」と言える川島町の標高は平均14・5mで高低差はほとんどなく、かつては見渡す限り水田地帯でした。この地域に集落を形成して生活を営むようになったのは奈良時代の少し前ごろとみられており、町内にはそのころの様子がうかがえる「塚」や「塚の跡」が残っています。

江戸時代になると川越藩の支配の中で農業生産が高まりましたが、反面、荒川の流を現在の場所に変えたことで、たびたび水害に悩まされるようになりました。その後、時代が進むにつれ、河川改修や堤防の築造によって徐々に水害を克服してきました。昭和29年（1954年）、川島領と呼ばれる中山・伊草・三保谷・出丸・八ッ保・小見野の6か村が合併し、川島村が誕生。以後は中学校の統合や上水道の敷設など、積極的な村づくりを進め、昭和47年（1972年）11月に町制を施行しました。現在では首都圏中央連絡自動車道川島インターチェンジの開通に伴い、インター周辺開発が進み町は変革のときを迎えています。



川島町の木：もくせい



川島町の花：はなしょうぶ



川島町の鳥：ひばり

第2章

川越地区
消防組合

これまでの歩み



—いままでも



人々の命と地域の安全を守り抜く。



そしてこれからも—



1973
昭和48年

- 4月1日 消防本部2課(総務課、消防課)、1署(川越消防署)、3分署(新宿分署、霞ヶ関分署、高階分署)体制、職員143人で業務を開始した。
- 7月11日 火災予防を徹底するため広報車を霞ヶ関分署、高階分署に配置した。
- 9月5日 川越地区危険物安全協会から小型乗用自動車1台の寄贈があり、消防本部に配置した。
- 10月15日 川島分遣所を設置し、職員8人、救急車1台を配置した。
- 10月22日 各分署に対する一斉指令装置を川越消防署に設置した。
- 10月23日 埼玉県共済農業協同組合連合会から救急車1台の寄贈があり、高階分署に配置した。

1974
昭和49年

- 1月7日 川島分遣所庁舎が完成し、職員14人、水そう付消防ポンプ自動車1台、救急車1台を配置して業務を開始した。
- 3月19日 中高層建築物に対処するため、32m級はしご付消防ポンプ自動車1台を川越消防署に配置した。
- 4月1日 川島分遣所を川越消防署川島分署とし、消防本部2課、1署、4分署体制とした。
- 11月21日 消防本部・川越消防署庁舎が完成し、11月23日に移転し業務を開始した。

1977
昭和52年

- 4月1日 川越消防署に通信指令第1係・通信指令第2係を設置した。
- 6月29日 現場指揮本部用車両を消防本部に配置した。

1979
昭和54年

- 4月5日 川越消防署大東分署を新たに設置し、消防本部2課、1署、5分署体制とした。
- 大東分署庁舎が完成し、職員21人、水そう付消防ポンプ自動車1台、救急車1台、広報車1台を配置して業務を開始した。
- 7月24日 警防車1台を川越消防署に配置した。

1980
昭和55年

- 5月1日 川越消防署の通信指令第1係・通信指令第2係を専従制とした。

1981
昭和56年

- 9月30日 葵ライオンズクラブから広報車1台の寄贈があり、消防本部に配置した。

1982
昭和57年

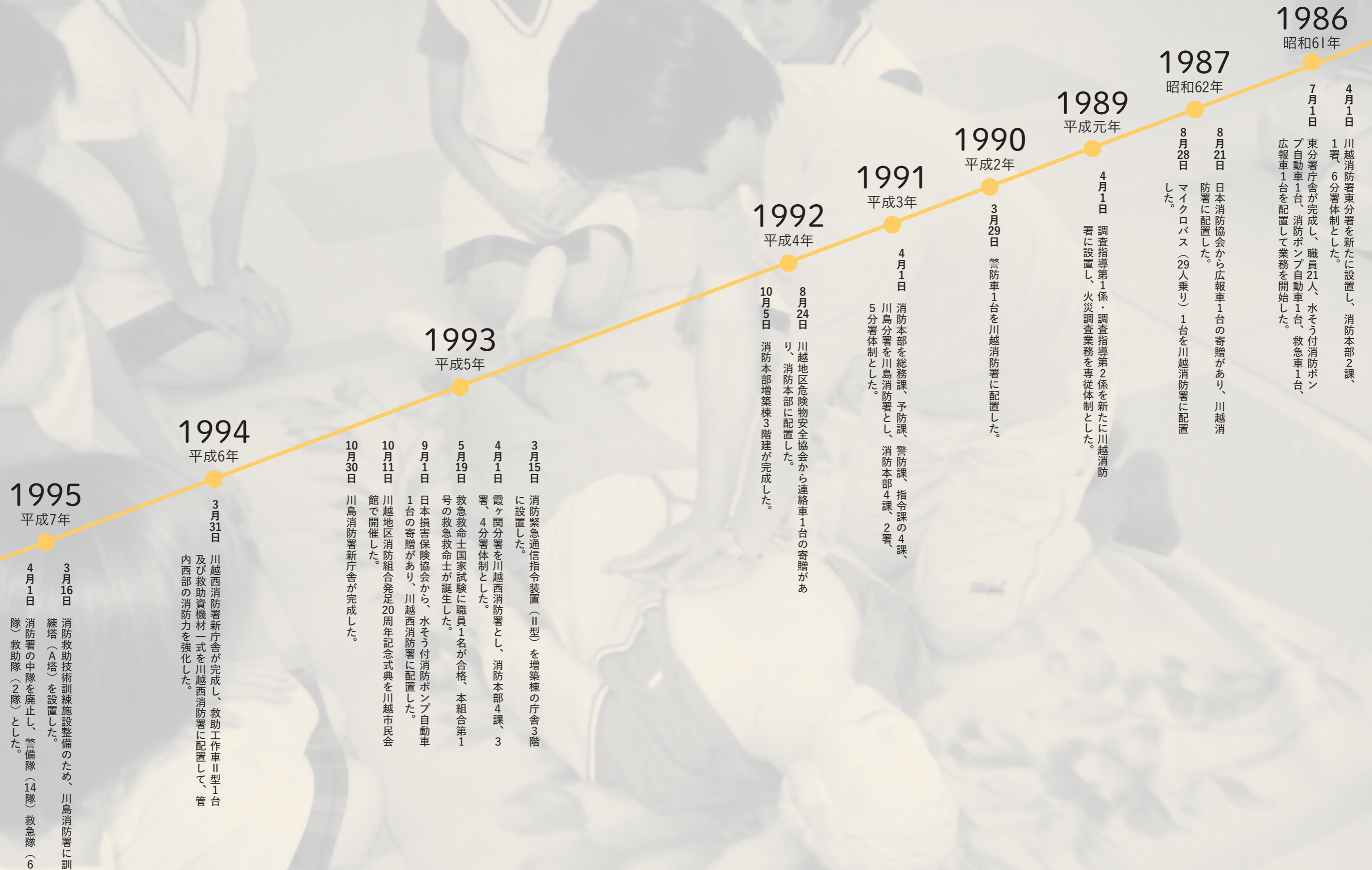
- 1月29日 救助工作車1台を川越消防署に配置した。
- 2月1日 通信指令室に消防緊急指令装置を設置した。
- 10月20日 日本損害保険協会から、水そう付消防ポンプ自動車1台の寄贈があり、川越消防署に配置した。
- 10月22日 地震体験車(川越なます号)1台を川島分署に配置した。
- 12月21日 化学火災に対処するため、化学車1台を大東分署に配置した。

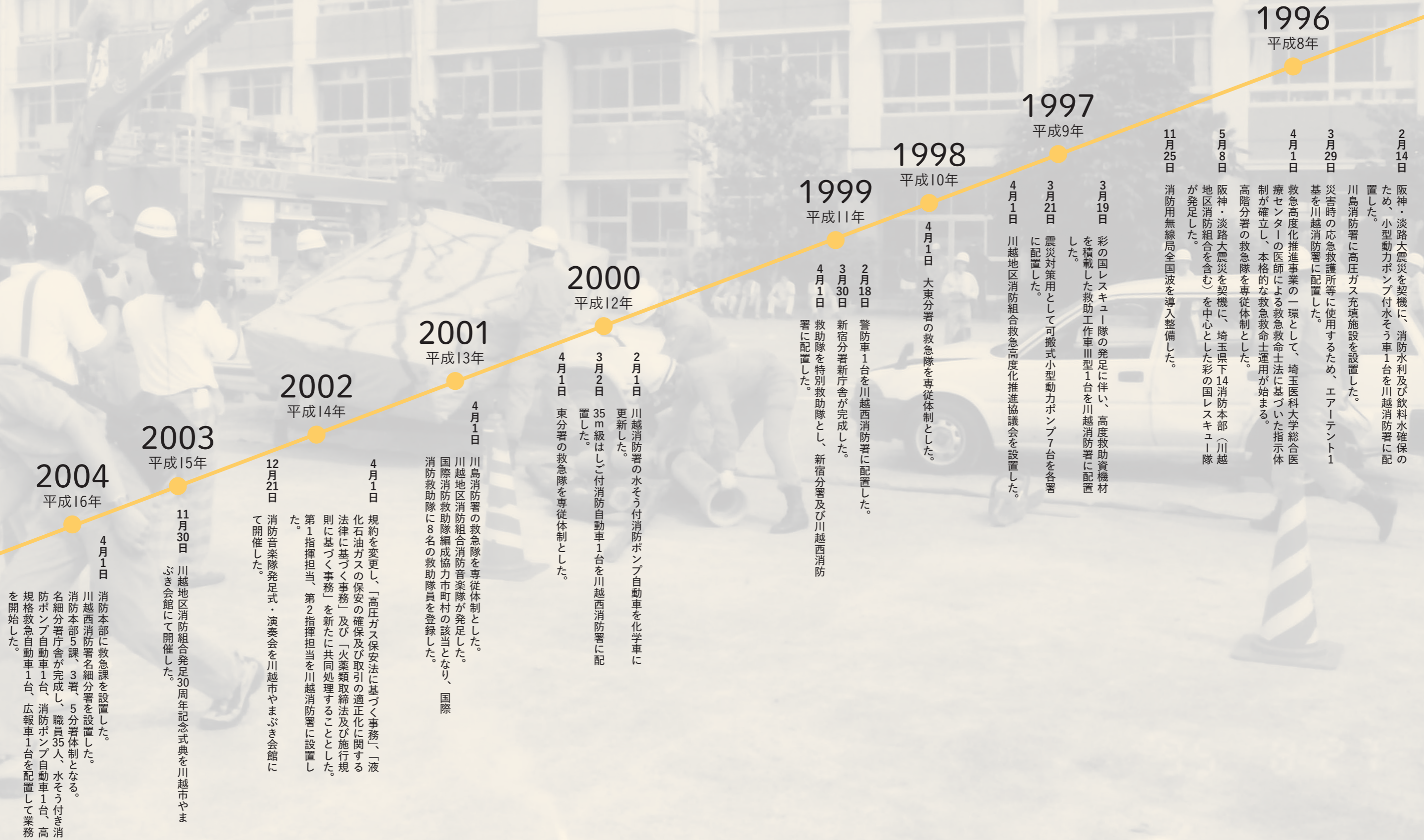
1983
昭和58年

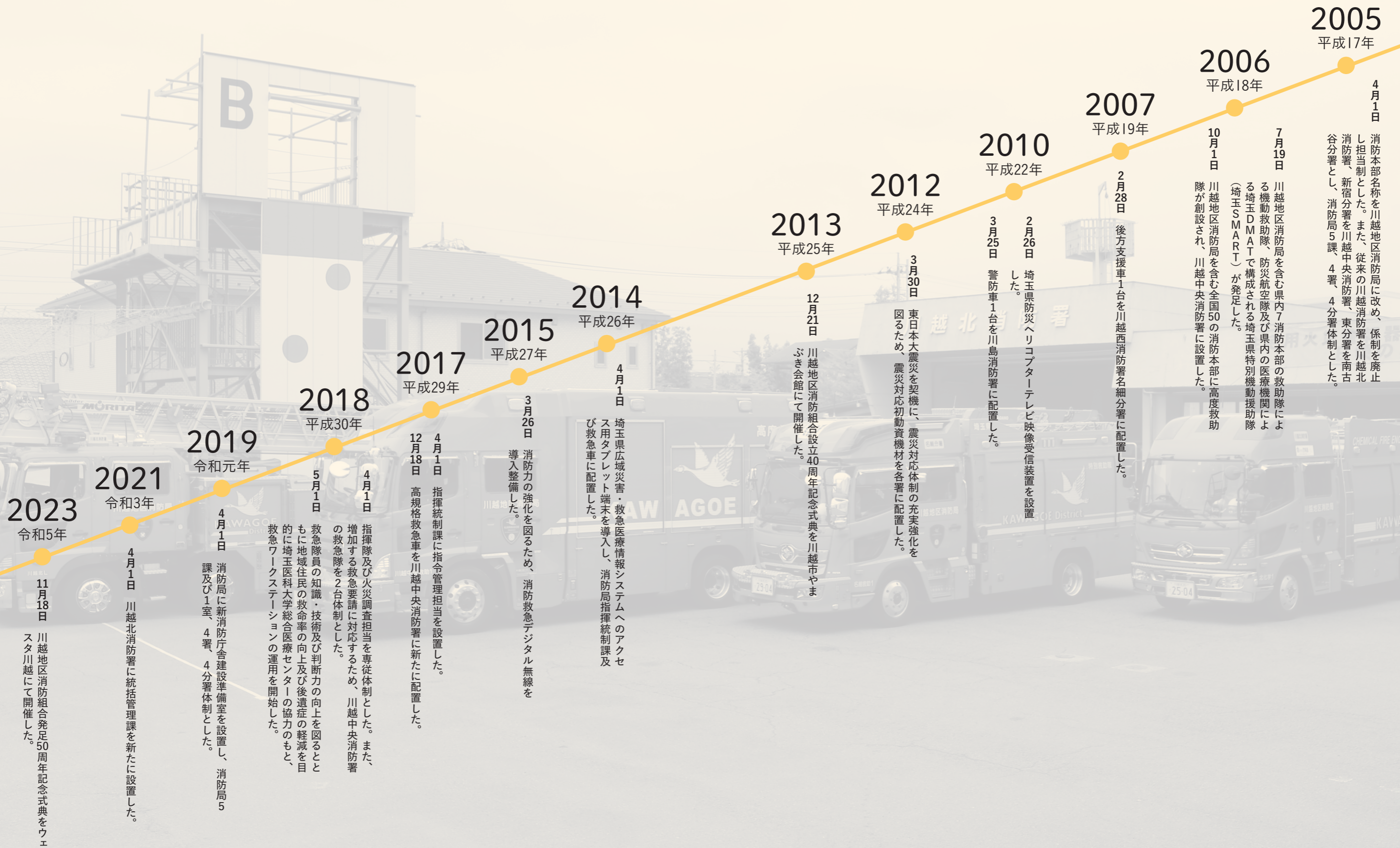
- 1月14日 通信指令室の総合気象観測装置を更新した。
- 2月8日 通信指令室に救急専用無線局を設置した。
- 3月25日 消防救助技術の向上を図るため、川越消防署に訓練塔(B塔)を設置した。
- 12月6日 エアーマスク用ポンベの空気充填の迅速化を図るため、川越消防署に空気充填庫を増築整備した。

1984
昭和59年

- 2月28日 高層建築物の増加に対処するため、46m級はしご付消防自動車1台を川越消防署に配置した。
- 3月15日 消防救助技術訓練施設整備のため、川越消防署に訓練塔(A塔)を増設した。
- 3月25日 新宿分署に車庫を増築し、32m級はしご付消防ポンプ自動車の配置換えをした。









「紀文号」として生まれ変わったハドソン号

『紀文号』として活躍した時代



消防車としての使命を終えた後も「安全」への変わらぬ思いを抱き、走り続けたハドソン。

消防を引退後、株式会社紀文食品に引き取られたハドソン号は「ハドソン・スーパー6紀文号」へと名称を変更。日本全国で交通安全キャンペーンや記念パレードに参加しました。

日本初の国際博覧会、大阪万博が開催された昭和45年（1970年）には、2ヶ月間にわたり、北海道から九州まで日本を縦断したそうです。



—その車は、時代を超えてなお
なにひとつ変わらぬ輝きを放っていた。



川越消防の黎明期を支えた消防車『ハドソン号』

昭和4年（1929年）。川越消防組消防常備部（のちの川越消防署）に一台の消防車が配備されました。米國ハドソン社で製造されたこの消防車は「ハドソン号」として親しまれ、以降30年近くにわたって第一線で川越の街を守り続けました。

昭和32年（1957年）、新車両の導入に伴い惜しまれつつ引退。市内在住の個人の手によりポンプなどの装備が外され、一般乗用車へと生まれ変わったハドソン号は、その後株式会社紀文食品へ譲渡。「紀文号」と名前を変え、キヤンペーンのため日本列島を縦断するなど第二の人生を謳歌しました。

1世紀近くにわたり、数多くの人々に愛され続けたハドソン号。現在は千葉県内のガレージで、静かな余生を送っています。



多くの隊員を乗せて訓練に向かうハドソン号。力強いエンジンの響きが今にも聞こえてくるようです。



消防装備が架装されたハドソン号。木製スポークのタイヤホイールは当時としても珍しいものでした。

現役時代のハドソン号

川越地区消防組合 OB職員インタビュー

川越地区消防組合設立50周年を記念し、
OB職員の新井茂さんに
ハドソン号の思い出を交えながら
当時の消防の様子をお話いただきました。



——新井さんが消防署に入られたのはいつ頃ですか？
私は昭和29年（1954年）9月1日に消防に入り、それから退職するまでの34年間、ここ川越消防で勤務を続けてまいりました。

——当時の川越の町の様子や思い出を聞かせていただけますか？
当時私が消防署に入った時は、10名体制の班が2班あり、署長1名、隊員20名、事務員が2名という体制でした。この頃の川越の町の様子ですが現在と変わらないものも多く、今でも道路や橋、建物などに当時の面影が見て取れます。

——仕事に携わる中で川越の街に対して感じたことを教えてください。
川越はその昔大火に見舞われましたが、私が勤務していた昭和29年（1954年）から昭和63年（1988年）までの間は、小さい火災は頻繁に発生していたものの、大火と呼ばれるほどの火災は発生しませんでした。主な火災の原因としては、天ぷら油による出火が一番多かったのです。全焼火災というものは少なかったのですが、昔ながらの建物が今でも残っているのだと思います。特に蔵造りの建物が立ち並ぶ一番街商店街は、そこに住む方々が火災に対して十分に気をつけていたのではないのでしょうか。最近では菓子屋横丁の火災が記憶に新しいところですが、現在の川越は大



往年の活躍を偲ぼせる存在感のハドソン号

ハドソン号の現在

ハドソン スーパーシックス消防車

諸元

昭和2年（1927年）製造
米国ハドソン社製

全長：4.6メートル
全幅：1.9メートル
全高：1.85メートル
（装備除く）

エンジン：直列6気筒
3000cc

昭和4年（1929年）
川越消防組消防常備部

昭和32年（1957年）
引退

取材協力
株式会社エフジェイ
ピンゴスポーツ様



アール・ヌーヴォー調のメーターパネル

そのガレージの一角で、ハドソン号は往年の名車たちと共に囲まれて静かに佇んでいました。気品のある、それでいて力強さに満ち溢れるその姿は、消防車の装備が外された今でもなお、かつての活躍を十分に思い起こさせるものでした。誕生から100年の時を迎えようとしているその歴史の生き証人は、現代を生きる我々に何を語るのでしょうか。



関係者の手厚い整備が窺えるエンジンルーム



100年もの間その車体を支え続けた木製スポーク



曲面で構成された美しい車体

きな火災はだいぶ少なくなったと聞いています。それはここに住むみなさんが火災が起きないよう気をつけながら、堅実に生活をしている結果だと思えます。

川越の街中には神社やお寺をはじめ、歴史的な建物がたくさんあるので、さまざまな場所で消防訓練を行ったことも思い出深いです。

——当時の消防車両ハドソン号についての思い出を聞かせていただけますか？

当時の川越消防署には駐車スペースが3台分あり、そこにハドソン号を中心にいすゞ号とフォード号が並んでいました。駐車場の上には仮眠室があり、火災が発生したと通報を受けると隊員は滑り棒で下に降り、消防車両に乗って現場へ向かっていました。

ハドソン号は誰でも運転できるというわけでは



定年退職を迎えた際に贈られた記念品



ハドソン号のフロントグリル下部にある穴。ここにクランク棒(スターティングハンドル)を差し込みエンジンを始動した。

なく、決められた人しか運転を担当することができませんでした。当時、消防車の運転を担当する隊員は消防署の中では神様のような存在でして、私たちがポンプ車に乗ろうとして、ハンドルに手をかけただけでとても怒られましたし、エンジンルームのカバーを開ける際について無造作に操作してしまい、「ボディに傷がつくじゃないか！」と怒られたこともありました。一見厳しいようですが、が、車両のことをとても大切に思われていたからに他なりません。

また、ハドソン号は人力でエンジンを始動する構造でした。クランク棒を穴に差し込んで力一杯回すことでエンジンをかけるのですが、これにはコツがあり、うまく回さないとエンジンがかからないんです。車と人が一体になって初めて動かすことのできる消防車でした。

合できなかったことがありました。先輩隊員から「落ち着け！」と言われてなんとか吸水管をつなげることができ、放水長の「放水はじめ！」の掛け声と共に無事ホースから水が出たときのことは今でもよく覚えています。



現場到着したハドソン号。ただちに吸水管の接続作業にあたる消防隊員たち

また、新人隊員はサイレンを鳴らす担当を任せられました。当時は手動式なのでハンドルを回してサイレンを鳴らし火災現場まで向かいます。この時先輩隊員から「腕を回すのではなく尻を回せ」と言われ、車体から体を乗り出して体全体を使ってハンドルを回していました。今ではスイッチを押せば自動でサイレンが鳴りますが、昔はサイレ

ンを鳴らすのも体力のいる仕事でしたね。新人時代はとにかくやるが多かったの、あちこち駆け回ってとても大変でした。

——消防隊員として活動している中で大変だったことはありますか？

昭和32年(1957年)になるとハドソン号と入れ替わり、ランドクルーザーの消防車が配備されました。私は同時期に運転免許証を取得したこともあり、ランドクルーザーの最初の機関員を任せられました。



現役当時の新井さん(写真左から2人目)。仲間たちとの一枚

——新人時代に体験した火災現場でのお話を聞かせてください。

ハドソン号に乗って火災現場に到着すると、ただちに放水準備にとりかかります。まず最初に隊員全員で車体から吸水管を下ろし、3本ある吸水管を結合してポンプ車に接続します。新人隊員は吸水管のオス側の結合金具を、ベテラン隊員はメス側の結合金具を担当するのですが、訓練の時は問題なく結合できても、いざ火災現場となると緊張と炎に圧倒され、手が震えてしまい、うまく結

ランドクルーザーと私の火災初出動は、あいにくと激しい雨の日でした。現場へ向かっている道中、前方を走る車を追い越そうとした際に、一瞬ハンドル操作が効かなくなりました。幸い事故に至ることはなく、無事活動を終え帰署することができたのですが、なぜそうなったのか隊員みんなで検証した結果、原因は装備の過積載と分かりました。加えて車両の後部に隊員が2人乗車するので、更に車両の後ろに荷重がかかってしまい、前輪が浮いてしまってハンドルを切ることができなかつたんですね。その瞬間は本当にヒヤリとした



現役時代の光景を写した貴重な写真の数々



新宿分署(現川越中央消防署)長時代の新井さん

第3章

川越地区 消防組合

組織・業務紹介



消防組合旗
平成5年9月作成
旗生地：江戸紫色本絹糸先琥珀織
消防章：金糸、銀糸最高級盛上手刺繍
飾房：金糸四段七宝
寸法：680mm×980mm

川越地区消防組合は、昭和48年4月1日に川越市、川島町の1市1町の構成により消防事務を共同処理することを目的に、1消防本部・1消防署・3消防分署、川越市消防団(1団本部・12分団)、川島町消防団(1団本部・3分団6部)、消防職員143名、消防団員453名をもってスタートしました。

組合設立50周年を迎えた令和5年では、1消防局・4消防署・4消防分署、川越市消防団(1団本部・12分団)、川島町消防団(1団本部・6分団)、消防職員433名、消防団員374名で地域の安全・安心を守っています。

ことをよく覚えています。火災発生時にたまたまトイレに入っていた隊員が、消防車に乗り遅れるということもしばしばありました。当時はトイレが消防署庁舎とは別棟の離れたところにあつたためです。この頃は連絡車がありませんでしたし、無線機も携帯電話もありません。ですので車に乗り遅れた隊員は、自転車で乗って火災現場まで向かわなければならぬです。現在では各署で分担している管轄区域も、当時は一署で全市内を受け持っていたので、遠くの場所でも火災が発生した時に車に乗り遅れると、重い消防服を着て自転車で向かうのはとても大変なことでした。



退職の日を迎えた新井さん。仲間たちに見送られ消防署を後にしました。



新井茂氏
昭和29年(1954年)に消防署に入職。退職を迎えるまで、34年間に渡り消火活動や予防業務等に尽力した。



——ハドソン号が今も残っていることについてどう思われますか？
ハドソン号の退役は私は消防署に入ってからほんの短い期間だったので、ハドソン号と関わりがあった期間は短かったですが、現在も実在していると聞いてとても嬉しく思います。
——本日はありがとうございました。



インタビューを終え、消防車両を背景に現職員たちと記念撮影

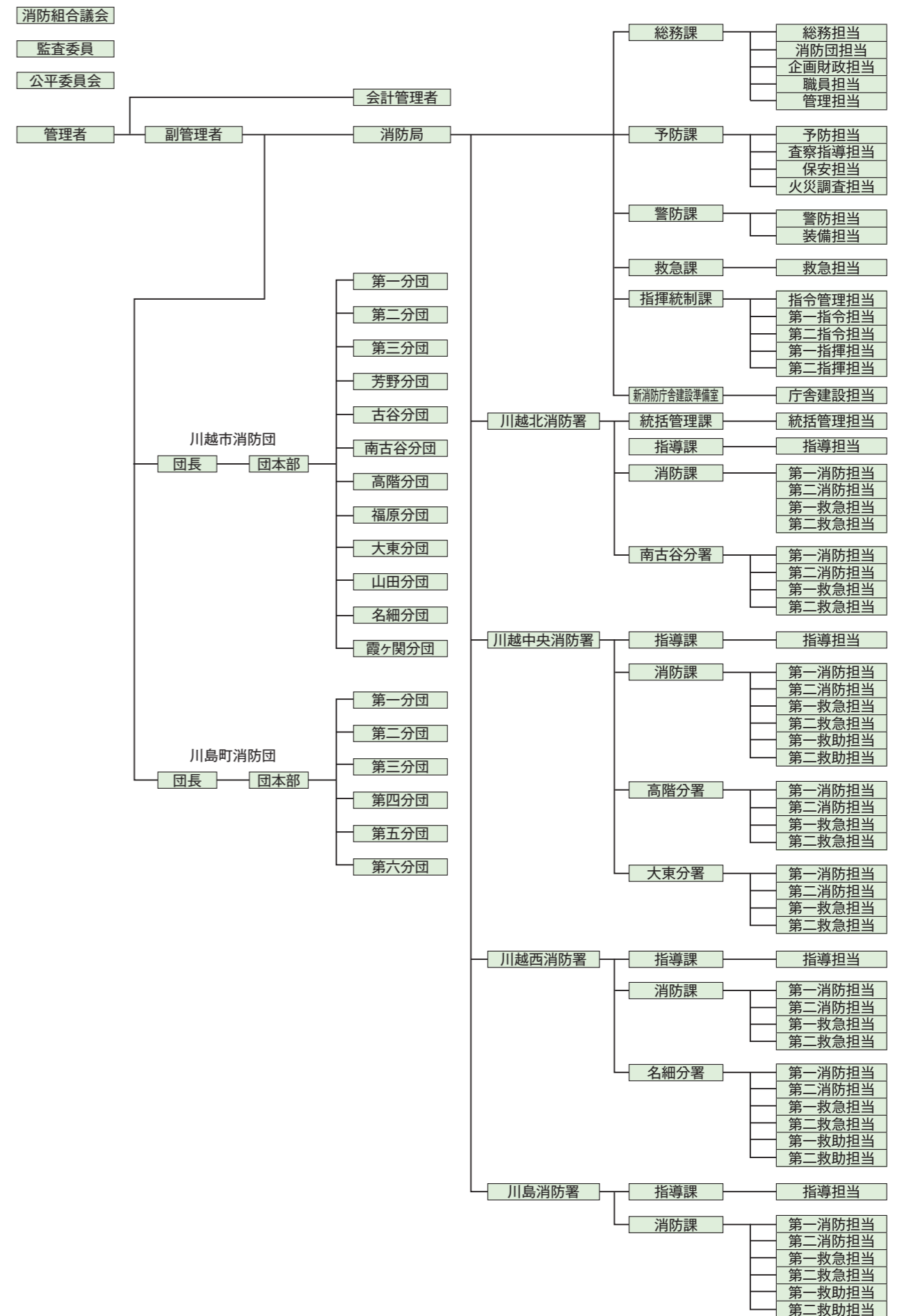
庁舎配置図

-  消防局
-  消防署
-  消防分署
-  消防団本部
-  消防分団



川越地区消防組合機構図

令和5年4月1日現在



川越地区消防組合庁舎

令和5年4月1日現在

川越西消防署 名細分署



- 消防職員 45名 ■ 消防車両 8台
- 建築年月日 平成16年3月31日
- 📍川越市大字鯨井589番地1 ☎049-234-0119

川越中央消防署 大東分署



- 消防職員 33名 ■ 消防車両 5台
- 建築年月日 昭和54年3月15日
- 📍川越市南大塚1丁目1番地9 ☎049-245-3119

川越中央消防署



- 消防職員 70名 ■ 消防車両 9台
- 建築年月日 平成10年11月13日
- 📍川越市新宿町2丁目14番地7 ☎049-242-2365

川越地区消防局・川越北消防署



- 川越地区消防局
- 消防職員 87名 ■ 消防車両 6台
- 川越北消防署
- 消防職員 47名 ■ 消防車両 7台
- 建築年月日 昭和49年11月21日
- 📍川越市神明町48番地4
- ☎〈消防局〉049-222-0700 〈川越北消防署〉049-226-7290

川島消防署



- 消防職員 43名 ■ 消防車両 6台
- 建築年月日 平成5年7月12日
- 📍川島町大字平沼888番地 ☎049-297-1891

川越西消防署



- 消防職員 42名 ■ 消防車両 7台
- 建築年月日 平成6年3月31日
- 📍川越市伊勢原町5丁目3番地 ☎049-231-2066

川越中央消防署 高階分署



- 消防職員 33名 ■ 消防車両 5台
- 建築年月日 昭和47年8月30日
- 📍川越市大字砂新田16番地3 ☎049-243-8054

川越北消防署 南古谷分署



- 消防職員 33名 ■ 消防車両 6台
- 建築年月日 昭和61年6月25日
- 📍川越市大字久下戸3528番地1 ☎049-235-0801

救急 業務

救急隊は具合が悪くなった人やけが人に必要な処置を行いながら適切な医療機関に搬送することを任務としています。救急隊の中には、国家資格を取得した救急救命士がおり、高度な救命処置を行うことも認められています。傷病者の苦痛を悪化させず、迅速に医療機関に搬送するための最善の方法を学び、考え、日々の訓練を行いながら救急業務を行っています。

また救急件数の増加に伴い、救急車が現場到着するまでの平均時間も全国的にみて延伸しています。このような現状でより重要となるのは現場に居合わせたみなさんの応急手当です。

目の前の命を救うために応急手当の重要性をを広めることも、私たちの大切な業務です。



川越地区消防組合業務紹介

消防の業務は、災害対応、火災予防、防災安全など多岐にわたり、地域住民の安全・安心を守ることです。

また、大規模災害等の発生において被災地の消防力では対応が困難な場合に、緊急消防援助隊として被災地に出場し活動を行います。

消防 業務

消防隊の任務は火災をはじめとする様々な災害に出場し、消火や危険要因の排除などの活動を行います。また管轄地域の建物や店舗などに立ち入り、防火管理体制や消防設備等、避難経路などの状況を検査し指導すること、地域の事務所や自治会を対象に防火対策・防火講話・自衛消防訓練などの指導も行います。さらに、消火活動の他にも救急支援活動があり、消防隊が救急現場において行う安全確保のための危険排除、救急隊のみでは搬送が困難な場合における傷病者及び資機材の搬送補助等、円滑な救急活動を行うために必要な支援活動を行います。



指令 業務

消防指令センターでは指令管制員が、24時間365日、119番通報による火災や救急要請等を受報しています。そして通報内容を聞き取り、内容を基に的確に災害種別を判断し、必要とされる部隊を出場させています。出場指令後も活動する上で必要な情報を迅速に伝達することで、部隊の活動を支えています。

また、通報内容が救急要請だった場合は救急隊が現場に到着するまでの間、傷病者の状態に応じ電話を通して、心肺蘇生法等の口頭指導を行います。大切な命を救うため、現場に出場しない指令管制員も救急救命に携わっています。



救助 業務

救助隊は、火災や交通事故等で、特別な資機材を用いて、その危険な状態を排除し、要救助者等を安全な場所に救出することを任務としています。

また、水難事故に対応するための潜水隊も編成されています。

さらには、国際消防救助隊の登録消防本部として世界各地で大規模な災害が発生した際に登録隊員を派遣し、被災地での救助活動を行います。



文化財 防火訓練



訓練を終えたことを報告する消防団員



訓練に参加する消防職団員の指揮を執る指揮隊長



喜多院の境内で行われた文化財防火訓練。実際に火災が発生したことを想定し、現場には消防車両と消防職団員が出動しました。訓練であっても現場さながらの緊張が走り、厳粛な雰囲気の中無事訓練は終了しました。川越の街が今後も大火に見舞われないことを願います。

予防 業務

火災による被害を少なくするため、火災予防の啓発・広報活動を行うとともに、建物や危険物施設への立入検査を行い、消防設備や防火管理についての指導を行っています。また、建物への消防設備の設置指導、各種届出の受付や事業所、学校や病院などの避難訓練、火災の原因調査等を通じて安全なまちづくりを目指す仕事をしています。

消防の仕事といえば、消火活動であったり救助活動や救急活動が挙げられますが、“予防”という仕事は、気付かれないところで火災を未然に防いでいる「縁の下の力持ち」。命を守ることに間接的に携わる大切な業務です。



予防業務



定例 表彰式



この表彰式は、毎年3月に行うもので、消防行政に功労のあったもの、消防団員、消防職員、消防団員の家族及び地域において消防防災活動の普及啓発等に寄与された住民の皆様を対象に各種表彰が行われます。

来賓として消防組合議会議長、川越市・川島町議会議長、代表監査委員、公平委員会委員長をお招きし、管理者、川越市・川島町消防団長より受表彰者へ表彰が行われます。

【表彰の種類】

(管理者表彰)

- ・有功表彰
- ・無火災分団表彰
- ・優良消防団員表彰
- ・優良消防職員表彰
- ・防火優良家庭表彰
- ・永年勤続消防団員家族の顕彰

(消防団長表彰)

- ・永年勤続消防団員表彰
- ・勤務優良消防団員表彰



優良消防団員表彰を受ける女性消防団員



防火優良家庭表彰を受ける家族



式典会場に華を添える消防組合旗・消防団旗

川島町消防団

Kawajima Volunteer Fire Corps

●川島町消防団の歴史

川島町消防団の歴史は、明治27年2月9日勅令（第15号）消防組規則施行により、中山村・伊草村・三保谷村・出丸村・八ッ保村・小見野村の6か村に消防組が創設されたことに始まります。

昭和14年1月24日勅令（第20号）警防団令施行により警防団に改組され、その後、終戦後の制度改革の中で昭和22年4月に消防団に改組されました。

昭和29年11月3日に6か村が合併し川島村が発足したことに伴い、川島村消防団に改組、昭和47年11月3日町制施行により川島町消防団となりました。

●現在の組織（令和5年4月1日現在）

| 名称 | 消防団員数 | 所在地 |
|------|-------|-----------------------|
| 団本部 | 11名 | 比企郡川島町大字平沼 888 番地 |
| 第一分団 | 16名 | 比企郡川島町大字吹塚 737 番地 1 |
| 第二分団 | 18名 | 比企郡川島町大字伊草 184 番地 |
| 第三分団 | 18名 | 比企郡川島町大字白井沼 880 番地 |
| 第四分団 | 16名 | 比企郡川島町大字上大屋敷 144 番地 1 |
| 第五分団 | 18名 | 比企郡川島町大字畑中 344 番地 1 |
| 第六分団 | 18名 | 比企郡川島町大字下小見野 277 番地 1 |

構成人員

| | | |
|---------|------|----|
| 【消防団本部】 | 団長 | 1名 |
| | 副団長 | 2名 |
| | 女性団員 | 8名 |
| | ・部長 | 1名 |
| | ・班長 | 1名 |
| | ・団員 | 6名 |

【分団】

| | |
|------|-----|
| 分団長 | 6名 |
| 副分団長 | 6名 |
| 部長 | 6名 |
| 班長 | 12名 |
| 団員 | 74名 |



消防特別点検



紙芝居による防災啓発活動



消防ポンプ車操法



舟艇訓練

川越市消防団

Kawagoe Volunteer Fire Corps

●川越市消防団の歴史

川越市消防団の祖は、安永3年（1775年頃）に創立された川越城下町十ヶ町、四門前の「町火消し」といわれています。自分達の町は自分達で守るという精神に基づいたものでした。

時代とともに名称は「町火消し」「消防組」「防護団」「警防団」と移り変わりましたが、地域に密着した災害対応機関として重要な役割を担ってきました。

終戦後の制度改革のなかで昭和22年4月川越消防団となり、発足しました。昭和30年4月川越市と周辺9ヶ村が合併し、ほぼ現在の行政区が出来上がり、その時に消防団も合併し、連合消防団となりました。

合併前は各村々に消防団があり、本部・分団がありましたが、合併に伴い、連合として各団を残し、昭和35年4月1日連合消防団を改組して、ほぼ現在の形の川越市消防団となりました。

●現在の組織（令和5年4月1日現在）

| 名称 | 消防団員数 | 所在地 |
|-------|-------|--------------------|
| 団本部 | 25名 | 川越市神明町 48 番地 4 |
| 第一分団 | 22名 | 川越市小仙波町一丁目 2 番地 15 |
| 第二分団 | 22名 | 川越市三光町 2 番地 8 |
| 第三分団 | 25名 | 川越市野田町一丁目 3 番地 8 |
| 芳野分団 | 25名 | 川越市大字鴨田 9 番地 1 |
| 古谷分団 | 22名 | 川越市大字古谷上 3831 番地 1 |
| 南古谷分団 | 20名 | 川越市大字今泉 307 番地 2 |
| 高階分団 | 15名 | 川越市大字藤間 346 番地 1 |
| 福原分団 | 12名 | 川越市大字今福 1785 番地 5 |
| 大東分団 | 18名 | 川越市南大塚一丁目 14 番地 20 |
| 山田分団 | 22名 | 川越市大字山田 167 番地 |
| 名細分団 | 17名 | 川越市大字小堤 644 番地 3 |
| 霞ヶ関分団 | 14名 | 川越市大字笠幡 2365 番地 1 |

構成人員

| | | |
|---------|-------|-----|
| 【消防団本部】 | 団長 | 1名 |
| | 副団長 | 4名 |
| | 女性団員 | 20名 |
| | ・分団長 | 1名 |
| | ・副分団長 | 1名 |
| | ・部長 | 1名 |
| | ・班長 | 2名 |
| | ・団員 | 15名 |

【分団】

| | |
|------|------|
| 分団長 | 12名 |
| 副分団長 | 12名 |
| 部長 | 12名 |
| 班長 | 24名 |
| 団員 | 174名 |



応急手当普及啓発活動



消防ポンプ車操法



キャラクターとともに消防団PR



子供用防火服装着体験



左から齋藤現局長、橋本前局長、大久保元局長、高野元局長、岸田元局長

川越地区消防組合を支えてきた 歴代そして現消防局長座談会

消防局のトップとして、地域の人々と消防職員を支えてきた歴代消防局長4名と、現消防局長による座談会を行いました。当時の様子を振り返りながら、今後の消防組合の未来についてエールをいただきました。

——現役時代の印象深かった出来事についてお聞かせください。

大久保元局長 消防に入り災害に携わる職に従事した中で印象に残るのは、阪神・淡路大震災、そして東日本大震災です。特に東日本大震災は私たち職員自身にも大きな影響を及ぼした災害であり、私自身の消防人生の中でも一番大きな出来事でした。職員の方々に消防組合を代表して、現地に赴いていただいたことも強く印象に残っています。

高野元局長 消防職員として、数ある災害を経験しその活動を振り返り検証するなかで、今後組織として同様の災害に対してどのような対応するべきかということは常に念頭に置いていました。そして地域の皆さんを幸せにするには、私たち自身も力をつけなければなりません。そのため何ができるかということ

を考えていました。そんな中、救助技術を競う全国消防救助技術大会に、川越消防の職員が埼玉県の代表として出場し上位入賞を果たすことができた際には、それにより他の職員も含めて組織全体の士気が向上するのを実感しました。

岸田元局長 2019年に発生した台風19号は市町域内にも多くの被害をもたらしましたが、特に河川の氾濫によって孤立状態となった福祉施設の被災は報道でも大きく取り上げられました。このときの報道対応も含めて、本災害においては川越市と消防組合の連携強化に尽力したことを印象深く感じています。

また、現在建設している新庁舎の用地選定にあたっては、議員の皆様や地域の方々から沢山のご協力を頂いたことが消防局長時代の思い出として強く残っています。

橋本前局長 私は2021年に1年間消防局長を務めました。当時はまさに新型コロナウィルス感染症が蔓延していた時期で、これまで続けてきた職務が思うように行えないという状況でした。そうした中、東京オリンピックのゴルフ競技が川越市内で開催されました。この時の消防特別警戒は、これまでに経験したことのない最大級の警戒体制が敷かれることとなりました。無観客ではあったものの、隣接する消防本部と一丸となって職務を全う

した結果、無事に全日程を終えることができ、今まで積み重ねてきた訓練や会議の成果が実を結んだことをありがたく感じました。これもすべて職員一人ひとりが頑張っていたいただいた結果だと思っています。

齋藤現局長 先ほど先輩がお話くださった新庁舎建設についてですが、2026年の完成を目指して、2024年に本体工事が着工する段階まで進みました。ここまでの道のりはとても長く、先輩方の努力があったからこそ今に至ることができたと感じております。

私が1年半余り消防局長として勤務してきた中で特に印象に残っているのは、今年の8月に連続炎上火災が発生した時のことです。

この時は、偶発的に3か所同時に火災が発生したのですが、3件以上の火災が重なることはあってもすべての火災が炎上しているというケースはこれまでありませんでした。当直の消防力のみならず非番召集の人員を投入し、更には近隣消防本部からの応援を受けるとともに県下応援要請の準備をするにまで至りました。火災発生時は猛暑も重なり活動は困難を極めました。全消防分団との連携もあり、終息できたとき、これまで培ってきた組織力を感じました。改めて、こうした困難を乗り越えて50周年を迎えられたことを本当にありがたく思っています。



——これまで変化してきたと感じること、今も受け継がれていると感じることはありますか。

大久保元局長 従来から川越地区消防組合は、出動体制が非常に密なところが大きな特徴です。現在も第一出場の時点で多くの車両が出場し、火災を早期に抑えることに重点を置いています。そういった面で、川越地区消防組合の火災に対する向き合い方は自負できるも



のと昔から感じています。

高野元局長 隊員の安全や健康をより重視しようとする考えが定着し、火災現場での熱中症を予防するために冷却ベストを着るなど、個人装備が以前と大きく変わりました。そのほかにも車両に装備されている資器材の軽量化や、後方支援体制の強化は大きな変化だと

伝いをさせていただきました。職を離れたあともこうして消防に関わることができたことに運命を感じました。この先も新しい感染症など様々な事例が出てくることも懸念される中、みなさんますます努力に励まれていることでしよう。これからも頑張っていたきたいと心から思っています。

高野元局長 消防を退職し、改めて消防とは社会に貢献し、地域の方に感謝される素晴らしい職業だと感じました。現職のみなさんも日々自分の能力を磨き努力していることと思います。それを継続し、世の中の役に立てる人材になっていただくと、先輩としてとても嬉しいです。日々の業務は大変ですが、多くの人に認められている仕事なので、これからも是非頑張ってください。

岸田元局長 良い組織を作るのはやはり人だと思います。現在4百数十名の職員がいますが、一人ひとりが自分も組織の一員という気持ちでこれからも頑張っていたきたいです。消防はチームなので、人と人との繋がりが大切だと思います。職員同士挨拶をするなど、基本的なことですが初心を忘れずに、これからも職務に励んでください。

橋本前局長 川越地区消防組合は、50年という長い歴史と伝統があります。今の職員のみなさんは技術も知識もとても高いと感じてい

思っています。

岸田元局長 川越地区消防組合では各署に水を積載している水槽付ポンプ車と、水を送ることを主とするポンプ車が各1台ずつ置かれ、その2台が1組となって現場に向かいます。これにより早期放水、継続放水が可能となります。このペア作戦が昔から確立できているのも特徴です。

——**現役時代やりがいを感じた職務はありますか？**

橋本前局長 平成29年、大久保さんの局長時代に、中長期的な視点に立った消防行政運営を目的とした消防基本計画が策定されました。私も計画の作成に携ったのですが、多様な発想を取り入れるという方針のもと、各部会を編成し様々な職員の意見を聞きながら試行錯誤を繰り返しました。策定に至るまでには様々な苦労もありましたが、消防組合の根底となる基本計画が今に活かされていることが何よりもうれしく感じています。

大久保元局長 基本計画を作ったことで多くの職員の意見を聞くことができ、特に今まで作成に携わったことのない若い職員からは、「自分たちの意見も取り入れてくれたんだ」と評判が良かったですね。

ますので歴史と伝統の上にみなさんの持っている技術と知識を上乗せして、さらに素晴らしい消防人として活躍していただきたいです。仲間を大切にする、そしてより良い消防活動ができるよう、さらに自分を高めていくてください。

齋藤現局長 私は設立50周年という年に、今現役で川越地区消防組合に在籍させていただいていることを、とてもありがたく感じています。職員一人ひとりが自分が今あることに



——**最後に現職のみなさんにエールをお願いします。**

大久保元局長 私たちは消防を退職し、住民として守ってもらう側になりました。日々努力を積み重ね、技術を磨いているみなさんへの期待が大きいのと同時に、それを職業としていることをとても凄いいことだと実感しています。話は少し逸れますが、私は今医師会の事務に携わっており、一般のコロナ禍においては、職員のみなさんのワクチン接種のお手



感謝し、それが次の歩みに繋がりを、またそれを振り返ることが50周年の大きな意味だと思っています。設立50周年記念のロゴマークには雁の絵が描かれています。雁という鳥はV字飛行する際に役割を分担し、互いに安全を守り、励まし合いながら飛行します。その習性はまさしく消防の資質を表していると感じています。雁のマークを旗印にしながら、みんなが突き進んでいける50周年という節目に感謝し、先輩方に築いていただいた基礎をしっかり受け継ぎ、この先の未来に繋がってきたいです。

——**本日はありがとうございました。**

座談会出席者

- 第5代消防局長 大久保愛一郎（写真右から1番目）
在職期間：昭和54年4月1日～平成27年3月31日
- 第7代消防局長 高野春雄（写真右から2番目）
在職期間：昭和55年4月1日～平成30年3月31日
- 第8代消防局長 岸田隆（写真右から3番目）
在職期間：昭和53年4月1日～令和2年3月31日
- 第10代消防局長 橋本丈夫（写真左から1番目）
在職期間：昭和56年4月1日～令和4年3月31日
- 現消防局長 齋藤匡央（写真左から2番目）
在職期間：昭和57年4月1日～現在

第4章

川越地区
消防組合

50周年記念事業



川越地区消防組合公式 YouTube チャンネル



川越地区消防組合では、消防の業務や当組合の取り組みなどを広く知っていただくため、動画共有サイト（YouTube）を活用して広報用動画等を紹介する「川越地区消防組合公式チャンネル」を開設しています。

【チャンネル開設日】令和4年12月28日

【チャンネル名称】川越地区消防組合公式チャンネル

【URL】https://www.youtube.com/@kawagoe_fire_dept.

【動画掲載内容】川越地区消防組合の紹介、各種行事や消防啓発等





川越市役所屋上からの降下訓練後、一斉放水を開始しました。

川越市(川越市役所)



川越女子高等学校と川越西高等学校書道部の作品を展示



新年の訪れを祝う「はしご乗り」



開会の言葉と共に式典が開催された。



管理者(川越市長)による式辞

新年を迎え蒼天の下で行われた 消防出初式

組合設立50周年を迎える中で行われた新春の風物詩。多くの来賓・来客が訪れ、賑わいのある2日間となりました。



川島町(川島町役場)



迫力のある放水訓練に観客は圧倒され、冬の寒さも忘れるほどでした。



子どもたちの演奏に会場は大いに沸いた。



間近で見る消防車両の勇ましい姿



副管理者(川島町長)による式辞



開会式に整列する消防職団員

令和5年(2023年)1月7日(土)川島町役場、8日(日)川越市役所にて開催された消防出初式。新年を迎えたばかりの青々とした広い空の下で開会式が行われ、管理者(川越市長)・副管理者(川島町長)による式辞の後、議長・団長による挨拶や来賓の祝辞の言葉を受け、くす玉が開披されました。

両日共に会場には多くの見学者が集まり、消防職員による息のあった行進や迫力のある消防車両分列行進を見て、多くの歓声が上がりました。川島町役場で行われた消防出初式では、とねがわ幼稚園幼年消防クラブの子どもたちが元気いっぱい演奏する姿を見せ、また川越市役所で行われた消防出初式では、川越高組合・木遣保存会による「木遣りとはしご乗り」が行われ、会場を大いに盛り上げました。

式典がクライマックスに近づくと両日共に消防職団員による一斉放水が実施され、迫力のある風景を見せた後に閉会を迎え、住民の安全・安心を願うとともに、消防関係者の一年の安全と奮起を誓い合いました。



管理者による式辞



組合議長の挨拶



感謝状贈呈

2023年11月18日・19日の両日に渡り、川越地区消防組合設立50周年を記念した式典及び消防フェスタが開催されました。当日多くの方が集い、各所で賑やかな声を聞くことができました。

晴天の下、ウエスタ川越にて開催された川越地区消防組合設立50周年記念式典・消防フェスタ。来場者には特に家族連れが多く見られ、放水体験、はしご車搭乗体験、地震体験などが行われた屋外エリアでは、非日常を体験する子どもたちの元気な声が聞こえました。同時に屋内エリアでは、火災時にどのように行動したらいいかをVRによって学べる装置や、119番通報の正しいかけ方、各種展示を行い、緊急時に落ち着いて対処する方法を知ってもらうことができました。

開催初日の午後にはウエスタ川越大ホールにて記念式典が開催され、管理者（川越市長）の式辞の後、組合議長挨拶、感謝状贈呈が行われました。

また、この日は特別なパフォーマンスも催され、川越市在住の親子ピアニストユニット「山田隆広&凛仁（りひと）」によるピアノ演奏や、山村学園高校バトン部・ダンス部による演舞、川越第二ひばり幼稚園・川鶴ひばり幼稚園の幼年消防クラブによる合唱も行われ、会場は驚きと感動の拍手に包まれました。式典も終盤に差し掛かったところで消防局長の決意表明が行われ、今後の川越地区消防組合の更なる発展を誓いました。その後は人気お笑い芸人による消防お笑いライブが開かれ、会場内を笑いの声で沸かせ式典は終了。また、開催2日目には消防音楽隊による記念コンサートが開催され、職員たちのパフォーマンスにイベントの盛り上がりは最高潮に。天候にも恵まれ多くの来場者が訪れた2日間は、大盛況のうちに幕を閉じました。

50周年を祝した特別なパフォーマンス!



市内在住の親子ピアニストユニット「山田隆広&凛仁（りひと）」による演奏で幕を開けた記念式典



息の合った演舞を披露する山村学園高等学校バトン部・ダンス部



式典のために練習を重ね、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれたみなさん。幼稚園児から高校生まで、若い世代の活躍を見ることができ、今後の活躍に期待で胸が躍りました。また、この日のために集まっていた人気お笑い芸人のライブや、消防音楽隊による記念コンサートも成功に終わり、多くの方に喜びと感動を与えられた2日間となりました。



「防火」と書かれた法被を着て元気よく合唱する、川越第二ひばり幼稚園・川鶴ひばり幼稚園の幼年消防クラブ



記念式典終了後にお笑い芸人の皆さんと職員で記念撮影



特設会場で行われた躍動感あふれる川越女子高等学校・川越西高等学校書道部による書道パフォーマンス





VR体験で初期消火の方法を学ぶ家族

屋内
エリア

屋内・屋外エリアも
多くの来場者で
賑わいました



消防団の活動紹介に興味津々な親子



防災航空隊員が実際装着しているヘルメットをかぶって隊員たちと記念撮影

各種車両が展示された屋外エリアでは長蛇の列ができました。車両の内部がどうなっているのか、地震の揺れがどのくらい大きいのかなどを来場者に体験していただいたほか、職員による救急寸劇を通じて緊急時の対処法を学んでいただきました。



青々とした広い空の下での、はしご車搭乗体験

屋外
エリア



起震車による地震体験。参加者からは「日頃から防災意識が高まる体験になった」などの声があがりました。



握り締めたホースから飛び出す水の勢いと圧力に興奮する子供たち



寸劇を通じて緊急時の対処法・応急手当の大切さを伝える消防職員

消防音楽隊
記念コンサート



2日目の19日(日)に行われた川越地区消防組合設立50周年記念コンサート。今回は初めての事前応募制を取り入れウェスタ川越大ホールの客席数1700席を大きく上回る応募があり、当日は「満席」で幕が上がりました。

川越地区消防組合消防音楽隊は、住民の防火意識の普及啓発を図ることを目的に平成13年(2001年)に発足し、現在35名の消防職員と2名の消防団員で活動しています。音楽隊員の多くは音楽経験がありませんでしたが、消防、救急、救助業務の傍ら日々の演奏訓練に励んでいます。隊員たちは「いつかは、大ホールを満席にできるような音楽隊になれ!」との諸先輩方の言葉を胸に刻み、これまで活動を続け、この記念すべき組合設立50周年という節目に実現することが出来ました。

第1部は、組合設立50周年を記念して、消防音楽隊長の齋藤恭央が作曲したファンファーレ「時の川を越えて」から始まり、クラシックの名曲や、荒井由実バラード・コレクションなどを演奏し観客を魅了しました。

第2部の消防広報・音楽パロディ劇では、隊員によるパフォーマンスを見た観客から大きな笑い声上がり会場が盛り上がりました。続いて、「アニメソングメドレー2022」、「デビュー50周年アーティストヒットソングメドレー」、「THE DANCE MISSION 2023」など歌や踊りを交えながらのステージを披露。温かい拍手や手拍子で会場が一つになり、組合設立50周年記念事業を締めくくるコンサートとなりました。

第5章

川越地区
消防組合

消防関係協力団体



川越市立博物館・川島消防署・埼玉県防災航空センターを巡った

50周年記念事業 消防体験 バスツアーの様子



川越地区消防組合設立50周年記念事業として、消防体験バスツアーを開催。地域住民のみなさんに参加いただき、消防の仕事への理解を深め、災害時の対処法について体験を通じて学んでいただきました。

川越市と川島町の方を対象に開催した消防体験バスツアー。本ツアーでは消防に関心のある子どもたちを中心に、多くの地域住民の方にお集まりいただきました。川越市立博物館で過去に大火による被害を受けた川越の街の歴史を見学した後、川島消防署へ移動し、各種消防体験を実施。その後は埼玉県防災航空センターへ向かい、防災航空隊の訓練を見学しました。普段見ることのできない風景を間近で見た参加者からは驚きの声も聞こえ、同時に消防への関心を深めていただけた貴重な時間となりました。



消防職員に迎えられ、参加者が川島消防署に到着の様子



川越市立博物館では、防火性に優れた蔵造りの建物について学びました。

見て・体験して、消防への興味を深めていただいた2日間



埼玉県防災航空センターでは、ヘリコプターによる救助訓練を見学。間近で見る迫力に驚きを隠せない様子です。



子どもたちはワクワクしながら梯子車に搭乗し、非日常を体験しました。



消防車両に乗って記念撮影。敷地内を走る乗車体験に笑顔がこぼれました。



消防車両（支援車）の設備について、消防職員の説明を熱心に聞く子供たち



消防職員の訓練の様子を、真剣な眼差しで見学する参加者たち

幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼児期から正しい火の取扱いを学ぶことにより、火遊びなどによる火災の防止を図り、防火に対する知識の向上と災害時の身の守り方を身につけることを目的としています。

また、幼年消防クラブ絵画展、消防行事に参加し、火災予防のPR活動にも協力しています。令和5年4月1日現在、川越市4園、川島町3園が幼年消防クラブを結成しており、みんな元気よく活動しています。

令和5年4月1日現在

| | 名 称 | クラブ員数 | 結成年月日 |
|-----|-------------------|------------|-----------|
| 川越市 | 学校法人山口学園 | 川越ひばり幼稚園 | 376人 |
| | | 川越第二ひばり幼稚園 | 169人 |
| | | 川鶴ひばり幼稚園 | 87人 |
| | 学校法人根本学園 かすみ幼稚園 | 106人 | 平成2年4月1日 |
| 川島町 | 学校法人利根川学園 とねがわ幼稚園 | 151人 | 平成8年7月1日 |
| | 川島町立けやき保育園 | 83人 | 平成30年4月1日 |
| | 川島町立さくら保育園 | 109人 | 平成30年4月1日 |



川越地区危険物 防火安全協会

川越地区危険物防火安全協会は、会員相互の親睦と危険物事故等の防止及び防火対象物の火災予防の向上を図り、災害防止に努めることにより各事業所の健全なる振興発展、社会公共の福祉増強に寄与することを目的として活動をしている防火協力団体です。

【沿革（抜粋）】

昭和31年4月1日 川越市危険物安全協会設立

昭和39年4月1日 川越地区危険物安全協会に改称

昭和48年4月1日 川越地区消防組合発足に伴い、川島会員が加入

平成24年7月1日 川越地区危険物防火安全協会に改称

【組織】（令和5年4月1日現在）

会長 1名

副会長 5名

監事 2名

理事 18名

幹事 2名（内1名は担当課長）

会員 (1) 一般会員 275 事業所

(2) 賛助会員 27 事業所

事務局 川越地区消防局（予防課）



若手&ベテラン職員による座談会

～世代を超えて受け継がれる、「川越消防」の魅力～



川越消防を支えてきたベテラン職員とこれからを担う若手職員。それぞれ部署も立場も年代も異なるなかで、仕事の魅力、やりがいなどについて語っていただきました。



ベテラン職員紹介

| | | | |
|---|---|---|---|
|  |  |  |  |
| 消防局予防課 課長 小久保 和徳 (35年目) | 川越北消防署統括管理課 課長 岩淵 巧 (33年目) | 消防局警防課 主幹 宮本 直樹 (32年目) | 川越中央消防署消防課 主査 高柳 和之 (30年目) |

若手職員紹介

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |
| 川越西消防署消防課 副主任 野村 翔太 (8年目) | 消防局総務課 主事 加藤 隆成 (10年目) | 川越北消防署消防課 主事 手塚 亮多 (6年目) | 川越北消防署消防課 主事 岡本 優希 (6年目) | 川越北消防署消防課 主事 中木 野笑 (3年目) |

採用時の川越消防の印象は？

手塚 私が川越消防に入る以前に、菓子屋横丁で大きな火災が発生しニュースなどでも取り上げられました。その時に観光地を背景にしながら活動する川越消防のみなさんの姿をとってもかっこよく感じ、自分も同じ現場で働きたいと思いつく職に就きました。当時は右も左もわからず夢中で働き、そんな中でなんでもこなせる先輩たちがたくさんいて、私も先輩たちのようになりたいなと感じていました。

岡本 私は川越で生まれ育ち、地元の消防ということで小さい頃から川越消防に憧れがありました。以前、一番街商店街で人力車のアルバイトをしていたことがあり、その時に川越の歴史を勉強していく中で、100年ほど前に川越は大火に見舞われ、それにより蔵造りの建物が普及していったというのをアルバイトを通じて知りました。現在においても消防という存在は川越にとって重要な役割を担っていることも印象深かったです。それから蔵造りの街並みを消防車が走っていく姿を間近で見て、とてもかっこいいなと思っていました。

加藤 私も生まれも育ちも川越で、消防という存在がかっこいいなと学生時代から思っていました。私が生まれた年に阪神・淡路大震災が起き、中学3年生の時には東日本大震災



た。

宮本 私は平成4年4月採用で、現在勤続31年目になります。当時の先輩職員からは消防隊員というよりも職人といった印象を強く感じました。「火災が発生すれば身を投じて火を消す」というやりがいを持った先輩たちだったので、現場が全てという形で非常に緊張感がありました。先輩たちからは、直接手取り足取り教えてもらうというよりも、見て覚えるという時代でしたね。体力を上げることが管轄内の道をしっかりと覚えることが重要だったので、ひたすら地図を見て管轄内を覚えるようにと言われていつも宿題を出されていました。ですので日中でも夜間でも、ただただ道を覚えることに専念していました。

岩淵 私は同期の女性一名と共に初の女性職員として川越消防に入りました。当時の印象

が発生しました。その中で災害に対応できるような職業に就きたいと考え、消防士という職業を選びました。中学生の時に職場体験で川越中央消防署を訪れ、間近で消防車両や訓練をする隊員たちの姿を見て、採用後も訓練をする中でたくさん先輩方いろいろなことを教わり、改めて先輩たちはかっこいいなと実感しました。

野村 私が消防に入るきっかけとなったことは、大学1年生の春休みに東日本大震災が発生したことです。当時大学のゼミの先生の誘いで、福島県の南相馬の方へ1ヶ月ほどボランティアで訪れました。そこで一緒に活動した消防隊員の方がとても親切で、物腰が柔らかい印象だったんですが、いざ川越消防に入ってみると、南相馬の消防隊員の方と違ってここ先輩たちはとても厳しいなと感じまし

た。「なんでこんなに怖いんだろう？」と思いながら訓練した記憶があります(笑)。一方でその訓練を通じて、災害現場はいつ何が起きるかわからない場所なので、優しさだけでなく厳しさも必要なんだと感じたことが最初の印象です。

中木 私は令和2年10月の採用でしたので、ちょうど世間ではコロナ禍でした。そのため先輩たちも皆マスクを着用しているのですが、同じ顔の人が何人もいるという印象が強かったです。マスクを外す機会もなかったので、入ってすぐの研修では顔の表情が読めず、私も怖い人の集まりだなと感じました(笑)。先輩たちの顔を覚えるのも結構時間がかかりました。

高柳 私は子供の頃から消防士になりたいという思いが強く、平成6年にこの職に就きました。ちょうど川越西消防署が開署される年で、私を含む同期の25人が採用後に川越消防署で2ヶ月間の研修を受けることになりました。この時まずは基礎体力が必要だということと、毎日のようにオレンジの救助服を着て、手袋も運動靴もボロボロになるまで腕立て伏せや腹筋などのトレーニングに励んだことを覚えています。午前の講義から始まり夕方5時まで体力トレーニングをしたこともありましたし、川越消防署から上江橋の辺りまで往復約25kmのランニングをしたこともありまし



といたしましては、ガタイのいい強面の男の人がたくさんいる職場だと感じました(笑)。しかし、もともと男性しかいない職場だとわかって入ったので、この環境の中で楽しくやっていたころかと思いつきながら仕事をしていましたね。

小久保 私は小学生の頃からボランティア活動をしており、地域の子供会に顔を出したり、老人ホームに行ってお手伝いをするを通じて、将来人のために役立つ職業に就きたいと思っていました。そのことが消防に入った直接のきっかけです。採用された当初は右も左もわからない中で所属に配属されたので、それまでの学生気分とは真逆の、まるで軍隊のような環境に大きなギャップを感じました。しかし厳しさというものが、消防の目的である人を助けることや自分を守ることに繋がっ



てくるということも実感しました。

——若手職員から見て、先輩方は厳しいですか？

野村 先輩たちは厳しいです。しかし先ほど話した通り、その厳しさがないと緊迫感のある現場の中で、いざという時に判断が鈍り正しい行動ができないと理解しているため、厳しさがあるからこそ消防として成り立っていると思っっています。ただ、勤務時間が終わるとそれぞれ自由の時間になった時、日中はとても厳しくて話しかけられないような先輩がいるいろいろなことを話してくれて、オンとオフの切り替えができるメリハリのある先輩が多いと感じています。

中木 言い方が多少なりとも厳しいなと思うこともありますが、強く言っていたただかないと現場で危険な目に遭うのは自分なのでありがたく感じています。私は転職して川越消防に入りましたが、前職だと自分で一つの仕事を持って全部自分でこなさなければいけませんでしたが、ですが、この職場の人たちは優しくて、わからないことがあれば教えてくれるので感謝しています。

——先輩として意識していることはありますか？

岩淵 先輩にはなるべく話しかけるようにしています。たくさん話をする中で交流を深めて、何かあった時には相談してもらえよう。その日に言われたことを記したノートを見返して、地理調査や現場での活動内容を自分なりにまとめて勉強していました。その中で次の訓練や現場活動で、勉強してきたことが達成できた時に一番成長を感じました。

加藤 私は総務課に配属されていますが、以前は消防隊員として現場で活動していました。当時私は機関員(注:消防車の運転をする隊員)になることを目指していました。機関員になることはとても時間のかかるもので、時には苦手な分野の勉強もありましたが、消防車の操縦訓練を重ねるなどし、ついに目標だった正規の機関員になることができました。消防車で川越の街中を走って災害現場へ向かい、無事活動を終えて戻ってきた時にやっとここまで来れたんだと実感できました。

野村 消防は災害対応や訓練以外に、事務作業も多い職場です。初めて経験する事務作業でわからない点があったときは、ただ闇雲に上司の指示を仰ぐのではなく、同じ署の勤務で歳の近い加藤さんと二人で相談しながら、まずは自分たちで考えてみようという心がありました。この経験によって考える力が身に付き、加藤さんと一緒に成長することができたと思います。

中木 私はもともと人前で話すことが苦手なタイプでした。住民への訓練指導で消火器の取り扱いの説明を任された際には、緊張のあ



うな存在でいようと心がけています。女性職員の年代は様々ですが仲がいいですね。

高柳 勤務中も、長時間衣食住を共にする仲間だと思っています。しかし丸一日勤務をしている中で、全く話をしなかった先輩もいたことがありました。その時に今日は話をするのができなかったなと後悔したことを覚えていきます。会話というものはとても大事なことで、24時間共に過ごすなかでコミュニケーションを取ることはとても大切なことだと思うので、私も先輩には話しかけるようにしています。

——業務を通じてどんな時に成長できたと感じますか？

手塚 採用から3年間川越北消防署で勤務し、最初の1、2年は受付勤務をしていました。



まり断ってしまいたいと思うこともありましたが、先輩に教えてもらいながら指導方法の練習を重ねた結果、人前で自信を持って説明ができるようになりました。この職に就いてから、人前で話す機会が多くなり、以前に比べて成長できたのではないかと思います。

高柳 私は救急業務に長く携わっていますが、現場で経験したことを振り返り、次の現場で活かせるようになることが大切なんだと感じています。そうすることで傷病者に対して素早く適切な処置を行えるよう成長できたので、みなさんも日頃の業務を振り返ることを大切にしてください。

宮本 私は救助隊員歴が長く、その中で現場活動を通じて自身の成長を実感できた瞬間が二つあります。一つは隊長の命令によって現場の一番危険な場所に1人で赴く「進入隊



この時、日中は消防車に乗って災害現場まで行くことはありましたが、夜になると業務で消防署内に残らなければならなかったため、火災が発生した時に先輩たちが消防車に乗って出動する姿を見て、「自分ももっと多くの経験を積みたい、多くの人を助きたい」と思っていました。その後、年数を重ね後輩ができてきた頃には受付勤務から外れるようになり、多くの現場へ行くことが増えました。この時に人を助けることができるようになったことが、私のひとつの成長だと感じました。昨年からは救急車に乗るようになり、傷病者の方を病院に搬送した際に「ありがとうございます」と感謝の言葉をいただいた時、この仕事をしていてよかったなと感じました。

岡本 私は救助隊に配属されて現在2年目です。最初はわからないことが多く、帰宅後も

員」に選ばれた時、もう一つは隊長職に就き、要救助者と隊員たちの命を背負う立場で責任を全うできた時です。また、私はこれまで現場で経験してきたことを、今後の活動でも役立てるようマニュアルを作成しました。それを現場で活動する隊員たちがメッセージとして感じ取ってくれた時に、とてもやりがいを感じます。

岩淵 私は長く総務課の職員担当で職員研修などを任されていました。当初は、職員に対して研修を提供しているようで、逆に私自身が研修を受けているようなところもありましたが、経験を重ねるうちに、主導的に職員研修を運営できるようになりました。特に、新採用者職員研修では、研修が終わると新人たちが話しかけてくれて、この時にただ教えていたのでなく私の思いが伝わっていたのかな



と感じ、この仕事をやっていてよかったなと思えました。現在は、資機材の管理や署内の予算管理をする部署にいますので、現場の人たちが働きやすい環境づくりができて、みんなに喜んでもらえた時にやりがいと同時に自分の成長を感じられています。

小久保 消防に入って日々先輩にいろいろと教えてもらったり、訓練で指導してもらっている中で、自分自身が成長できているなと実感していました。平成5年に予防課に配属され、今まで現場で活動していたのが事務職に変わりました。当時の私は予防課ではどんなことをするのか全くわからずでしたが、法律に基づいて様々な指導をする部署と知り、消防とは法律に基づき仕事をしているということに改めて実感しました。予防課の業務のひとつに一級建築士や消防設備士等の国家資格を持った方々への指導がありますが、相手がプロなので、私自身も法律に基づいた知識を持たないと的確な指導ができません。ですので法律の知識をつけるために勉強し指導することを重ねてうまくいった時に自分の中でも自信が付き、成長できたと実感しました。

——川越消防の特徴は？

宮本 川越消防が誇れることの1つに国際消防救助隊の登録消防本部として、世界レベルの救助能力を持った職員がいることだと思います。



ます。全国でも国際消防救助隊に登録されている職員の数はそう多くはないので、川越消防の誇りですね。

岡本 国際消防救助隊として活動されている先輩たちをとっても誇りに思うので、私もいつか国際消防救助隊の一員として先輩たちと同じ現場で働けることを目標にしています。

——これからの川越消防について

岡本 現在では建物構造も多種多様化し、それに伴って災害時における現場活動の知識が必要となってきています。今後は自分たちが経験したことのない現場に行くことが増えてくるはずなので、ベテランの方々の経験と知識をできるだけ早く吸収し、災害状況を想定した訓練を実施して、さまざまな現場に対応できるようにしていきたいと思っています。

高柳 我々チーム一丸となって、川越消防を築き上げていかなければならないと思っています。また、住民とコミュニケーションを取り、どんなことをしてほしいと感じているのか知っていくことが重要だと感じています。私は救急現場で助けを求める多くの人を見てきました。その人々が何をしてほしいか、いち早く理解しなければなりません。ですから地域の人たちとの交流もさらに増やしていきたいですね。

——若手職員を代表して一言

野村 これまで先輩たちが培ってきた良いものを、後輩たちに残していくことはとても大切だと思います。しかし現在DX化などが進んでいる中で、必要なもの、そうでないものを見極めることもまた不可欠になっています。



です。ですのでそういったものを取捨選択しながら、時代に合った組織を作っていくために先輩方と私たち若手が協力して、川越消防をより良い組織に築き上げていきたいです。今回のようにみなさんと集まってお話をする場はなかなかないので、普段からコミュニケーションを取ることを大事にしていきたいです。

——ベテラン職員から若手職員へ一言

高柳 若手とベテランの距離感が近くなるように、気力だけは負けないぞという思いで交流を深めていきたいと思っています。

宮本 今本当にやりたい仕事ができているのかと考えている人もいます。しかし今求められていることに対して、精一杯努力するということがとても重要なことです。全力で臨めば必ず道はひらけますし、どこかでターニングポイントが訪れます。ですのでみなさん頑張ってください。

岩淵 消防は職員の9割が現場で活動します。現在定年は65歳まで引き上げられましたが、その年まで現場にいられるかと言うとそうではありません。消防が好きで入られた方が大半だと思いますが、各年齢ステージに対応した働き方を考えどうしていきたいのか、しっかりと人生設計を立てながら消防生活を楽しんでください。

小久保 私が消防に入ってから35年経ちます

が、それまで様々な時代の変化があり、その変化に合わせて消防も少しずつ形を変えてこまできました。ただ、時代に流されるだけではなく、消防には基礎となっている使命や目的があり、それに基づいて私たちは日々努力しています。今ここにいるみなさんは事務職や消防隊、救急隊、救助隊など異なる配属ですが、それぞれが一つにならないといけない消防は作っていけないと感じています。川越市や川島町に住んでいるみなさんが安心して安全に過ごせる街を目指して、そして住民の声に耳を傾けて寄り添いながら、明るい未来に向けてみんなで心をつなげて共に頑張っていきたいと思います。



川越地区消防組合設立50周年記念誌 別冊マンガを作成しました



profile

芥田ぺきみ

1999年生まれ。埼玉生まれの埼玉育ち。現在埼玉県在住。武蔵野美術大学卒業。2021年に「カナコの最果て」でゲッサン新人賞入選を受賞しデビュー。その他の著作は「アンノウンサマーソング」、「君とハワイでツーショット」など。普段は非日常な世界で生きる人々の話を描いています。好きな動物は猫ちゃん。趣味は散歩。川に沿ってどこまでも歩くのが好きです。

川越地区消防組合設立50周年記念誌

発行日 令和6年3月1日

発行 川越地区消防組合設立50周年記念事業実行委員会
パブリッシング作業部会
埼玉県川越市神明町48-4
TEL 049-222-0741

制作 株式会社櫻井印刷所

本紙掲載内容の複写及び転載を禁じます。

制作協力

川越市役所
川島町役場

取材協力

株式会社エフジェイビンゴスポーツ様

撮影

齊藤美春 中村香奈子 小松正樹

中里楓 島崎賢一

川越地区消防局のリクルート情報

いにしえから続く「時」の中で、人と人とのつながりによって生まれ受け継がれてきた歴史、伝統、文化と豊かな自然が織りなす川越市、四方を川に囲まれ、春には菜の花や桜、日本一長いバラのトンネル、夏には若稲、秋にはコスモス、冬には白鳥、住む人や訪れる人を飽きさせない川島町。川越市・川島町の住民の安全・安心を一緒に守りませんか？

消防の仕事って？

消防署



消防署では消防士が24時間365日、災害に備えて待機し、火災等の災害が発生すると昼夜を問わず出場します。

また、災害が発生していないときは、災害に備え訓練を行ったり、事業所等の立入検査や小学校等で避難訓練の指導を行うほか、出場後の報告書の作成などの事務も行います。

● 1日のスケジュール

消防署での勤務は、8時30分から翌朝8時30分までの1当直・24時間勤務となっていて、この間は、食事や仮眠など全てを消防署の中で過ごします。

消防局



総務課 消防組合議会、消防団、消防庁舎の維持管理、契約事務、予算編成、消防士の教育計画の立案、給与、福利厚生などに関する事務を行います。

予防課 火災予防に係る事業計画、防火管理、消防用設備等の指導、防火対象物の査察、危険物の規制などに関する事務を行います。

警防課 警防及び救助業務に係る企画立案、緊急消防援助隊、消防水利、消防車両や資機材の整備及び管理などに関する事務を行います。

救急課 救急業務に係る企画立案、救急自動車や救急資器材、医療機関等との連絡調整などに関する事務を行います。

指揮統制課 消防緊急通信指令施設、緊急通報及び出場指令、災害現場における指揮活動などを行います。

新消防庁舎建設準備室 新消防庁舎建設に関する事務を行います。

● 1日のスケジュール

消防局に勤務する消防士のほとんどは、いわゆる会社員と同じようなスケジュールになっています。月曜日から金曜日までの8時30分から17時15分まで勤務し、土曜日・日曜日・祝日が休みとなります。

よくある質問

Q：救急救命士になることは可能ですか？

A：可能です。まず、埼玉県消防学校救急科を修了することにより救急隊員としての資格を得ることができます。その後、一定期間の救急業務を積み、選考試験を経て救急救命士養成所等で課程を修了することにより、国家試験の受験資格が得られます。そして、国家試験を合格すると救急救命士免許を取得することができます。

Q：消防車の運転は誰でもできますか？

A：消防車を運転するには、消防車の大きさにより中型・大型自動車免許が必要になります。免許取得後、一定の操縦訓練やポンプ運用（現場で迅速に放水できるようになるための消防車の運用訓練）を行うことで運転ができるようになります。

Q：救助隊員になるには資格が必要ですか？

A：まず、埼玉県消防学校初任教育を修了し、その後、埼玉県消防学校救助科又は局内の救助隊員資格認定訓練を修了する必要があります。

Q：転勤はありますか？

A：原則として、川越市・川島町のいずれかの消防署が勤務地となります。

Q：女性消防士はどのくらい働いていますか？また、女性が活躍できる場はありますか？

A：令和5年4月1日現在23名の女性消防士が活躍しています。また、消防隊員、救急隊員のほか予防業務等、女性が活躍する場は多岐にわたります。

Q：作中にケガをした場合はどうなりますか？

A：災害現場や訓練中などにケガをした場合、公務災害補償制度が適用されます。もちろん、ケガが治ってからの現場復帰となります。

編集後記

このたび、川越地区消防組合が設立50周年という節目の年を迎えるにあたり、川越地区消防組合設立50周年記念事業実行委員会を設置し、その下部組織として記念誌の編集を専門とする「パブリッシング作業部会」を立ち上げました。

編集にあたり、組合設立50周年キャッチフレーズである「守り抜く 安全・安心 その笑顔」をテーマに住民の笑顔から始まり、様々なコラム、また別冊漫画誌の発行も企画するなど、これまでにない記念誌にしたいという思いの下、部会員一丸となり取り組んでまいりました。

本誌を編集するうえで、発足当時の諸先輩方は既に退職され、川越地区消防組合の歴史を知る職員が少ない中ではありませんが、各種資料の発掘やOBその他関係者の皆様のご証言、お力添えを頂きました結果、これまでの組合の歩みを一端でもご紹介することができたのではないかと思います。

終わりに、本誌発行にあたりご協力いただきました多くの皆様方に、心より感謝申し上げますとともに、この「川越地区消防組合設立50周年記念誌」が川越地区消防組合に対するご理解と今後の発展につながれば幸いです。

パブリッシング作業部会
 部長 本澤 哲

川越地区消防組合設立50周年記念事業

実行委員会

- ・委員長 齋藤 匡史
- ・副委員長 西村 政徳
- ・委員 浅見 篤
- ・委員 武笠 浩
- ・委員 竹内 太
- ・委員 神山 玲之
- ・委員 長澤 俊幸
- ・委員 大谷 清秋

幹事会

- ・幹事長 西村 政徳
- ・副幹事長 大谷 清秋
- ・幹事 小久保 和徳
- ・幹事 大畑 修
- ・幹事 本澤 哲
- ・幹事 木村 寛
- ・幹事 山本 雄一
- ・幹事 杉浦 力也
- ・幹事 関根 康浩
- ・幹事 大島 正光
- ・幹事 秦 哲生
- ・幹事 岩淵 巧
- ・幹事 中村 俊規
- ・幹事 山崎 康文

作業部会

セレモニー作業部会

- ・部長 大谷 清秋
- ・副部長 山崎 康文
- ・部員 野口 利明
- ・部員 寺島 真佐美
- ・部員 中村 優
- ・部員 河井 清香
- ・部員 瀬沼 健
- ・部員 渡部 俊介
- ・部員 福島 史也

プレスオペレーション作業部会

- ・部長 山本 雄一
- ・副部長 中村 俊規
- ・部員 矢角 利之
- ・部員 青柳 慎次郎
- ・部員 伊原 拓哉
- ・部員 近藤 克和
- ・部員 関 善仁
- ・部員 津久井 広大
- ・部員 加藤 結衣

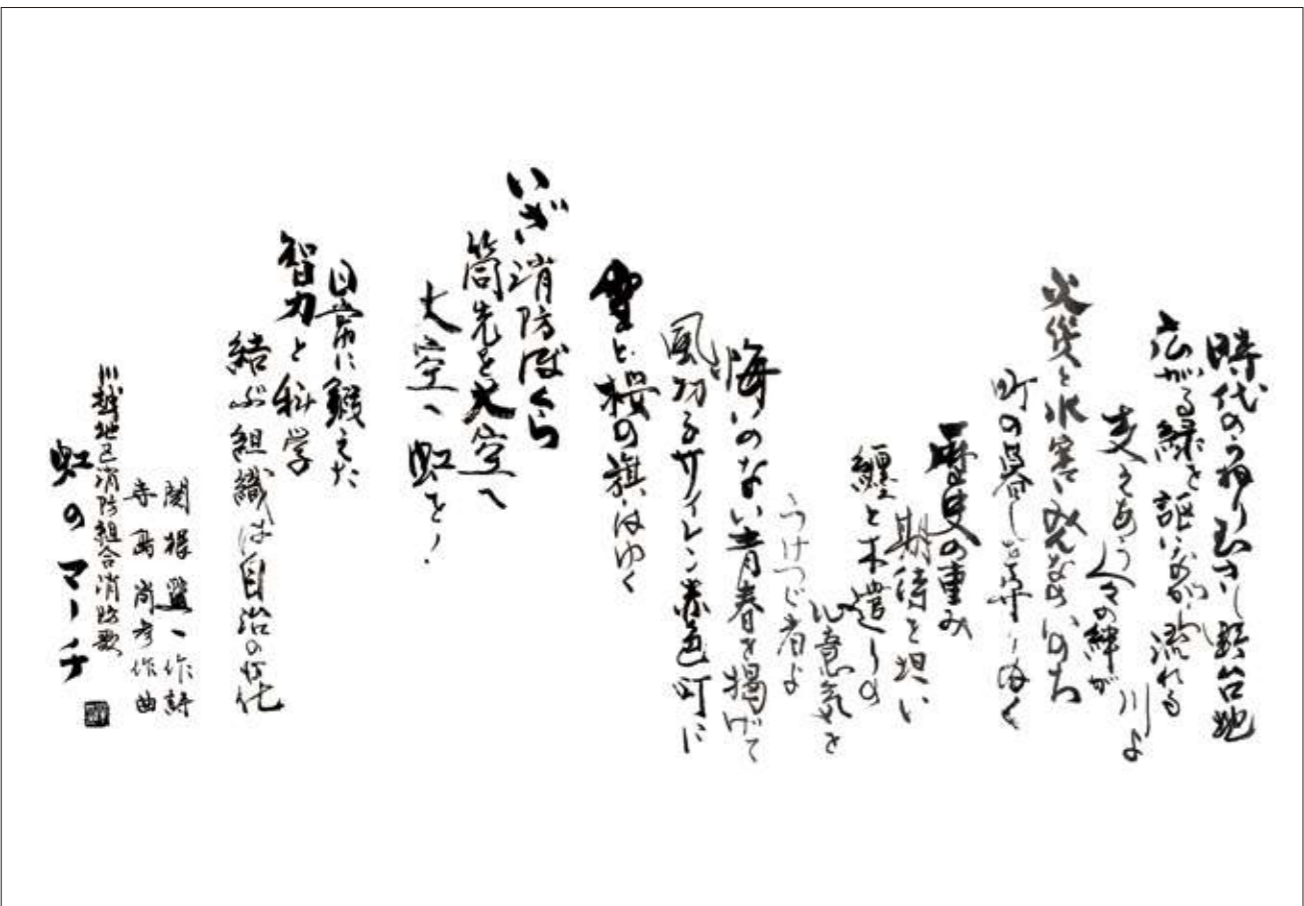
パブリッシング作業部会

- ・部長 本澤 哲
- ・副部長 木村 寛

- ・部員 幸地 洋介
- ・部員 小林 緑
- ・部員 坂本 達也
- ・部員 志村 久美子
- ・部員 野村 翔太
- ・部員 中木 野笑

事務局（消防局総務課内）

- ・落合 昭仁
- ・泉名 康正
- ・寺島 真佐美
- ・坂本 達也
- ・塩野 研人
- ・津久井 広大



虹のマーチ
 (川越地区消防組合消防歌)

作詞 関根 康浩
 作曲 岩淵 巧

しだいにうなるのびさしをだいたいひろが
 れるのうたいなをうけつてものよ
 るみどりのこころいそがしくも
 さいふのないうたひとをかきか
 ぐいすのないうたひとをかきか
 さいふのないうたひとをかきか
 さいふのないうたひとをかきか
 さいふのないうたひとをかきか
 さいふのないうたひとをかきか

KAWAGOE

District Fire Department 50th Anniversary

川越地区消防組合
設立50周年記念誌

2023